令 和 3 年 度 事 業 報 告

Ⅰ 概 要

1．総 括

【企画会議】

企画会議は、各専門委員会委員長で構成し、三役が参加し諮問している。委員会間の情報を共有するとともに意思疎通を図り、理事会及び専門委員会の運営が円滑に行われるように取り組んできた。

センターの現状を見ると、令和３年度末の会員数は233名となり、令和２年度末の会員数238名より５名減となり、目標数には届かなかった。令和３年度は、加齢や病気による退会に加え、在会期間中に死亡した会員が多かったことも原因として挙げられる。しかし、年度末の入会会員の年会費の対応について協議するなど、会員拡大に取り組んだ。

一方、契約金額については、コロナ禍でもあり、前年度よりシルバー人材センター事業の実績は減少したが労働者派遣事業の実績は増加した。しかし、目標の１億５千万円には届かなかった。また、目標とした粗入会率、未就業会員解消、就業機会拡大の各項目についても達成することはできなかった。

就労相談日を毎月第４水曜日にふれあいサロンで実施してきた。年間を通して、会員の就業に関する苦情や悩み、トラブルなどの相談に応じるとともに、一般の高齢者の就労に関する相談や、入会についての問い合わせに対応してきた。周知不足や相談についての抵抗感があることなどから件数は多くないが、定期的に就労相談日を設けて相談に応じる体制を作っていることに意義があるため、継続して実施していく。

毎年１月には企画会議が主体となり、一年の無事故を祈願し「仕事始め式」を開催している。令和４年も感染予防対策を講じながら開催した。例年出席率を高めることが課題となっているが、昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大により参加を自粛した会員も多かったため、参加人数の減少はやむを得ないと思われる。しかし、令和２年は中止となった餅つきを実施したことで、久しぶりに活気あふれる仕事始め式となった。

令和３年度は設立25周年を迎え、実行委員会が中心となり、記念式典、記念植樹などの記念事業を実施した。コロナ禍でもあり、感染拡大防止のために変更せざるを得ない事柄もあったが、実行委員会や会員同士での協力もあり成功裏に終わった。

ワークプラザは、主に手作り加工部つくしんぼなどの独自事業の活動拠点となり、活発に利用されてきた。会員が懇親を深め、交歓する集いの会場や伊佐さくら会活動の練習拠点としての位置づけも重要になりつつある。

【事業推進委員会】

令和３年度も、シルバー人材センター事業の効果的な事業推進と会員拡大を目的として取り組んで来たが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大による影響を大きく受けた一年であった。当委員会では主に、定時総会、行政機関との懇話会、市議会議員との懇話会を計画、実施した。

定時総会は、令和３年５月28日に、感染拡大防止のため出席人数の制限等、大幅に規模を縮小して開催した。委員会としては、定時総会の計画や運営の一助を担っている。

行政機関との懇話会は、令和３年10月15日に十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市長及び副市長、各課長19名、センター役職員24名が出席し、センターの概要説明と事業内容、会員の活動状況についての意見交換を行った。活発な意見交換を行うことができ、有意義な懇話会を開催することができたと思われる。市議会議員との懇話会は、令和３年11月５日にこちらも十分な感染予防対策を講じた上で開催した。伊佐市議会16名、センター役職員20名が出席し、事業内容と会員の活動状況等について説明を行い、意見交換を行った。両懇話会ともに、昨年度はできなかった懇親会を実施したことで、シルバー人材センターへの理解を深める機会となった。

苦情があった場合、迅速に対応することに留意しており、発注者に納得してもらう事後処理と、担当した会員への注意喚起等を行い再発防止に努めた。発注者あってのセンターであるため、不快な思いをさせるということは残念なことであり、発注者に喜んでいただき、苦情が限りなくゼロに近づくように取り組んでいく。

利用者アンケートについては、令和３年４月から令和４年３月までの間に、87件の回答があり、仕事の満足度については、満足が74件、普通が７件で不満という回答はなかった。利用回数は約86％が２回目以降であり、誠実な就業が次の発注へ繋がっていくことが回答結果からもうかがえた。

【組織管理委員会】

多くの会員がセンターの基本理念に基づき、地域単位で構成している「地域班」及び職種ごとに構成している「職域班」に属し、自主的、自立的な活動を実践している。令和３年度は、新型コロナウイルス感染予防対策に取り組みながら活動を行った。

会員拡大については、会員からの紹介による入会が効果があるため、引き続き「一会員一入会運動」を展開した。今年度の入会説明会の受講者は34名で、昨年度より２割減少した。入会者数は28名と昨年度より若干増加し、一定の成果を上げることができた。しかし、会員数については退会者が増えたことにより、昨年度より減少した結果となった。今後も入会説明会等の改善を図りながら、会員拡大に力を入れていきたい。

入会後には、新入会員を対象とした「新入会員研修」を実施し、センターの基本理念、心構えの徹底を図るとともに、会員が守るべき就業時のルール、手順等について説明している。また、福祉家事サービス群、管理群、事務群を対象に「職域班別会員研修」を実施し、センターの基本的な事項を中心に、苦情事例による問題点の共有や気の緩みによるミスがないよう注意を促した。

役職員独自研修は12月13日(月)に実施し、対象者89名中56名の出席を得た。

地区別ボランティア活動については６月５日(土)に、大口地区はふれあいセンター周辺、菱刈地区はまごし館周辺の清掃活動を行った。また全体ボランティア活動は、11月６日(土)に菱刈小学校にて実施し、校庭の樹木剪定や落ち葉清掃、除草などを行い学校側からも大変喜ばれた。いろいろな技術や道具を駆使して多くの人数が参加

するボランティア活動は、伊佐市においても評価を受けており、センターのＰＲにもなった。

【就業管理委員会】

新型コロナウイルス感染拡大の中、行政訪問活動などの啓発普及活動は縮小せざるをえなかった。街頭キャンペーンは参加人数を絞り込み、時期を秋にずらして実施した。広報車による街頭宣伝活動は毎月実施し、コミュニティなどに掲示している入会説明会・就労相談日関連ポスターの貼り替えを行った。特に10月の啓発月間においては、通常巡回していない羽月西や平出水などのコミュニティも訪問し、ポスターの掲示をお願いした。

一般市民と会員の交流を目的とした伊佐シルバー祭りも、コロナ感染防止のために式典開催を断念し、屋外で行えるグラウンドゴルフ大会のみを開催した。参加人数を絞っての開催ではあったが、久しぶりの盛り上がりであった。

この数年の懸案であった、施設管理群の就業ローテーションに着手した。数年前から順次異動を行う計画であったが、実行できなかった分を一気に実施することになったため、総入れ替えに近くなった施設もある。業務上の支障が発生しないように、万全の対策を講じながら行っている。

「植木剪定スクーリング」は、一般市民の剪定に関する知識や技術の習得を通じて、シルバー人材センターへの入会勧誘を行った。併せて会員の技術向上、剪定班の戦力アップを図る目的も同時に行った。

その他、シルバーふれあいショップ、菱刈まごし館など市内の施設に入会説明会の日程や各種講習会案内のポスター掲示やリーフレットの設置を行い、地域に情報を発信した。普及啓発月間の10月には、全会員によるチラシ配布活動を実施した。今後も地域に情報を継続的に発信しながら、会員拡大、就業機会の確保に取り組んでいきたい事業実績は、昨年度より契約金額は増加したが、就業延人員は減少した結果となり、新型コロナウイルスの影響が大きかった。また、『高齢者活用・現役世代雇用サポート事業』で配置された就業開拓員並びに事業コーディネーターについては、定期的な就業開拓の活動によりセンター事業の理解及び浸透を図った。

【福祉・家事サービス委員会】

福祉･家事サービス群としては、委員会を中心に一定の活動が行えた。しかし家事援助サービス班としての就業会員が少ないため、引き続き、会員の獲得が緊急の課題である。

福祉･家事援助サービスは、主な受注は高齢者家庭の家事援助である。市の包括支援センターや民生委員からの相談を機に就業に至るケースも多い。また長寿介護課の日常生活支援サービス事業や、ＰＲ課のふるさと納税返礼品(親孝行支援サービス)による受注もあり、ここから次の受注に繋ぐことで就業機会の拡大になるよう会員の協力が求められる。

「頭の体操教室」は、これまで受講者から大きな支持を受けており、令和３年度も引き続き、読み・書き・計算や、月１回の健康体操・輪投げ・スカットボールを行っ

た。また初の試みとして、栄養士による「栄養教室（フレイル予防教室）」を開催し、受講生には好評であった。例年通りのレクリエーションとは別にグラウンドゴルフを実施したりと「勉強ばかりでなく皆で楽しい事を」という受講生の要望を取り入れた。昨年度同様、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、教室は毎回アルコール消毒を行い、受講者・サポーターとも体温管理・手指消毒・マスクの着用を徹底して、密に充分配慮しての運営となった。受講者に毎回好評だった園児・児童とのふれあい交流は健康・安全面を考慮し、令和３年度も中止とした。

［頭の体操教室受講者実施状況］

実施校区	伊佐市委託事業			
	受講者	修了者	開設日	延受講者数
おおくち	39人	35人	36日	1,043人
ひしかり	20人	20人	36日	641人
やまの	12人	11人	36日	351人
ほんじょう	13人	13人	36日	389人
はつき	21人	19人	36日	590人

介護予防事業については、例年大口地区２回、菱刈地区２回の計４回行ってきたが、８月に開催を予定していた第２回が伊佐市緊急事態宣言発令により施設が利用できなくなったため中止を余儀なくされ、計３回開催した。検温・手指消毒・マスクの着用について理解いただき、密に配慮しながらの教室となったが、よい評価を頂くことができた。

［介護予防事業実施状況］

実 施 日	実施場所	実施内容	参加状況	
			一般	会員
５月24日(月)	こころ館	認知症サポーター養成講座	９人	16人
11月26日(金)	こころ館	スカットボール、健康体操、歌	９人	５人
１月21日(金)	まごし館	ダンベル体操、歌、輪投げ	５人	２人

子育て支援事業は、『放課後児童健全育成事業(児童クラブ)』を軸に、市や学校の協力のもと、十分な感染防止対策を講じながら充実した活動を実施することができた。

［放課後児童健全育成事業実施状況］

	開設日数	登録児童数	平均利用児童数	延利用児童数
山野児童クラブ	289日	23人	10.3人	3,004人
羽月児童クラブ	289日	21人	9.7人	2,824人

講習会については、例年２回開催している子育て支援講習会は、第２回の講師を依頼していた市保健師より業務が逼迫しているとのことで中止の要請があり、年１回の開催となったが、料理講習会は２回開催出来た。就業機会の拡大や会員のスキルアッ

プにつながるよい結果が得られたことから、今後も継続して実施していく。

［講習会実施状況］

講習会	実施日	実施内容	参加状況	
			一般	会員
料理講習会	７月２日	フレイル予防の料理	８名	４名
	12月３日	冬野菜の料理、簡単にできるお正月料理	７名	４名
子育て支援講習会	９月６日	発達障がいの児童の気持ちのくみ取り方･接し方	０名	９名

普及啓発活動については、今年度も市のイベント等がほとんど中止になったため、委員による２回の事業所訪問にとどまった。また会員個々の努力により入会者を集めることが出来た。福祉家事群によるボランティア活動も実施し、啓発活動及び地域貢献に努めた。

【独自事業管理委員会】

独自事業については、センターの特性を活かしながら、会員の自主的就業活動の場として安定した事業を展開してきた。

門松製作事業は、販売数量は前年度並みであったが、売上金額は単価アップにより、昨年度を上回った。今後更なる発展のためには、技術の研鑽や材料の確保及び作業段取りの改善に取り組む必要がある。

しめ縄事業は、昨年度の経験を生かし、技術の向上および就業会員増により、販売数量・金額ともに大幅増となった。今後も商品の更なる品質向上に努めたい。

シルバーふれあいショップは、相変わらずコロナ禍によるイベント等の自粛が多いが、ショップでの売上額は少し回復傾向にある。これからもお客様本位のショップを目標に活動したい。

手作り加工部つくしんぼは、新たな販売先を開拓した結果、売上は上々である。今後も社会情勢に応じた販売戦略の見直しと強化を行い、お客様のニーズに合った商品の開発と安定的生産に取り組みたい。

ふれあいサロンは、会員同士、また地域の方との憩いの場として、心に栄養を貰える居心地の良い場所であるが、利用者は少数の特定された人に限られてきた。これまで利用者の増加を図る方策の一環として、利用者の意見にも耳を傾けてきたが、今後はサロンの存在、魅力等を積極的に発信していく必要がある。

刃物研ぎ事業は、概ね順調な活動により、例年並みの取扱数量と売上額であった。

上記以外の事業は、大きな活動は出来ていない状況である。

総括すると、前年度に引き続きコロナ禍での活動であったが、就業を通して地域社会に貢献することを目標に、製造技術の向上や販売促進等に取り組んだ結果、全体として、概ね例年並みの取扱数量と売上額であった。

今後は、昨今の物価高騰への早急な対応と併せて、コロナ後を見据えた販売計画等の見直しを行う必要がある。また、後継者育成のためには、共働・共助の精神を大切にする等し、職場の更なるイメージアップを図ることも重要である。

【安全委員会】

過去５年度間の事故発生件数

事故 ＼ 年度	発生件数		
	傷害	物損	合計
29年度	12件	10件	22件
30年度	９件	６件	15件
元年度	５件	10件	15件
２年度	８件	５件	13件
３年度	３件	４件	７件

事業計画に基づき、安全委員会及び安全委員会対策員会議を中心に安全就業の推進に取り組んできた。

令和３年度も昨年同様、新型コロナウイルス感染拡大の影響により救急講習会、交通安全キャンペーン等を実施することができなかったが、その他の講習会は、感染防止対策を十分に講じながら実施した。

ここ数年と比較して事故発生件数が７件と大きく減少したことは、安全委員会と安全委員会対策員会議を中心に取り組んできた就業現地パトロールによる指導・助言や、各種講習会等に参加された会員の積極的な取り組みの成果と言える。事故発生件数が限りなくゼロに近づくように今後も継続した取り組みが必要である。

また、新型コロナウイルスの影響で開催が危ぶまれた安全就業大会を実施できたことは、安全・適正就業に関する情報を会員に提供するという一定の目的を果たすとともに、参加された会員の安全就業に対する意識啓発の一助になったと思われる。

２．理事会　令和３年度の理事会は、７回開催した。

理事会は、センター業務の運営上必要な事項について、総会に次ぐ議決機関であると同時に、最高の執行機関であるので、センターの発展のため、理事会を中心とした専門委員会活動の充実とセンター運営の統括を図るため、三役会議で各情報を収集し、各委員会へ反映させた。更に、センター事業の変革に対応するため、三役会議・企画会議での充分な協議により、理事会運営の強化も図った。

３．組織活動

(1)　地域班

今年度も地域班において自主的な会合が開催され、「シルバー伊佐」の配布，会員への連絡事項等、地域班におけるシステムが定着していることは、世話人を中心とした会員の協力体制が充実してきた現れである。今後は、更に一つ上の活動を目指し、全会員の率先した協力による活動が求められる。

(2)　職域班

会員への就業依頼を世話人・班長により行う、自主就業体制に基づく班運営も定着しているが、世話人・班長の努力によるものが大きい。安全面及び後継者育成のため、班長の定年制度が導入されており、今後も会員の率先した協力が求められている。

また、今年度実施した講習会は、次のとおりである。

①　職群別会員研修　　②　新入会員研修

③　機具取扱講習会(刈払機・チェンソー・トリマ)

④　植木剪定スクーリング

４．安全就業対策

会員の安全就業は、みんなの願いであり、大切な事項であるため、安全委員会及び対策員会議において、安全就業実施計画書を基に会員の無事故対策が講じられた。

(1)　安全就業マニュアル・安全就業実施計画書に基づく安全就業の徹底
(2)　安全就業の日朝礼式及び安全就業現場パトロールの実施
(3)　交通安全に関する講習会の実施
　　［車両安全運転・点検講習会］
(4)　安全就業に関する講習会の実施
　　［刈払機・チェンソー及びトリマ取扱講習会］
(5)　安全就業大会、安全講習会の実施

５．普及啓発関係

就業管理委員会を中心に、役員・会員により次のような活動を行った。

(1)　行政訪問活動並びに集客場へのパンフレット等の配置
(2)　地域施設等への広報（入会説明会・講習会日程等）
(3)　広報車による啓発活動

６．福祉・家事援助及び育児支援サービス事業

福祉・家事サービス委員会を中心に、組織的活動としては感染予防対策に努めながら一定の活動が行えた。

しかし、家事援助サービスについては、就業会員が少ないことから、会員獲得が緊急の課題であるため、今後も啓発活動に力を入れていく。

育児支援事業については、市委託事業を中心に様々な事業に取り組んでいるため、今後の活動が期待される。

(1)　シルバーハウジング(高齢者住宅等安心確保事業)の実施
(2)　頭の体操教室(認知症予防事業)の実施
(3)　児童クラブ(放課後児童健全育成事業)の実施
(4)　ほほえみ会定例活動の充実
(5)　講習会の実施[料理講習会，子育て支援講座]

７．独自事業の展開

独自事業は、会員自らの創意工夫により、趣意を同じくする会員が実施する事業で、就業開拓の大きな位置づけとなるため、独自事業管理委員会を中心に現事業の拡充並びに新規独自事業の研究開拓に取り組んだ。

後継者育成としては、定期的な講習会を開催し、独自事業会員の拡充を図った。

また、独自事業会員の資質向上を図るための研修等も実施した。

(1)　独自事業実施状況

①　門松製作事業　　②　しめ縄製作事業
③　花卉・園芸栽培事業　　④　製炭事業(木炭・竹炭)

⑤　シルバーふれあいショップ事業　　⑥　刃物研ぎ事業
⑦　竹ぼうき作り事業　　⑧　手作り加工部つくしんぼ
⑨　ふれあいサロン

(2)　講習会等実施状況

①　わら細工講習会　　②　刃物研ぎ講習会